https://www.ckuh-kobe.com/
Vol.2 2026年10月

幕末の海戦　瓦版

～由岐の伝説・阿波沖海戦～

発行：神戸大学海洋文化遺産プロジェクト
幕末における海戦の研究チーム
ckuh.awaoki@outlook.jp
078-431-6375

壱　由岐の人々にとっての、慶応4年1月4日

京都で鳥羽・伏見の戦いが勃発しようとしていたその日、「ドーン！」という大砲の音と共に、平穏だった由岐の村に1艘の黒い船が座礁しました。負傷した薩摩藩士の面々が上陸し、手当や食事の準備に追われる村人たち。深夜には船の自爆による大爆発に驚き、さらに翌朝には追撃してきた幕府兵約100名が村内をくまなく捜索していきました。中央の情勢を知る由もなかった村人たちが直面した、阿波沖海戦、緊迫の2日間でした。

弐　超シゴデキ。地元のヒーロー”米田甚八”

「阿波沖海戦」泉由幸：著掲載の写真より、25歳当時の米田甚八をAIで生成

1844年～1887年1月30日没
享年43歳

上陸してきた翔鳳丸と突然の折衝に当たったのは、日和佐の御番手、米田甚八。
この人が下手な交渉をしていたら、由岐にも甚大な被害が出ていたかもしれません。

現代版ビジネスストーリーで解説！

【背景】業界全体が法改正や構造改革で大揺れしている真っ只中。規制当局（幕府）の目も厳しい。そんな中、強大な業界最大手企業（薩摩）を無下に追い返せば後で酷い報復を受け、かといって安易に独断で全面協力・肩入れすればコンプライアンス違反で会社ごと業界から一発退場（指名停止・炎上）になりかねない、超ピリついた板挟み状態。

【発生した事態】地方支社（日和佐・由岐）に、業界トップ企業（薩摩）の幹部たちが、法的・ビジネス的に超巨大でヤバい危険案件（武器満載の翔鳳丸）を引っ提げて、事前連絡なしで突撃してきた。

そこにたった一人で対応を迫られたのが、現場の若手社員・米田甚八（25歳）。

甚八の2大神対応✨

- 船を綱取りで固定：現場での二次災害防止と資産保全
- 案内人を付け本社役人へ誘導：自身の越権判断を避けた完璧なエスカレーション

25歳の若手がパニックにならず「現場の安全確保」と「本社への引き渡し」だけに徹したことで、会社（地域）全体の壊滅的リスクを未然に防ぎ切りました。

参　時代を超えて、確かに感じる甚八の息遣い

【米田甚八の石碑】

「米田甚八（初名：和之丞・和之允）は、源姓米田氏で代々徳島藩士。温厚忠実かつ胆略・知略を備え、文武に通じて藩の剣術教授役を務めた。明治維新後は海部郡第一小区戸長、学区取締、郡書記・第一科長を歴任。10余年勤務して褒賞を受け、道路改修の監督委員としても尽力し、郡の名家・傑物と称えられた。
明治20年1月30日、日和佐の官舎にて43歳で病死。人々に惜しまれつつ、翌日、由岐葵地区の先祖代々墓所（次男正承の墓の隣）に葬られた。その後、弟の三郎や同僚らの建碑計画を受け、特に親交の深かった海部郡郡長正八位・田辺雷蔵が本略歴を記す。（明治20年10月）」　※碑文を文字起こしをした上で、AIで現代語訳

甚八の住んでいたトコロ

Googleマップより

米田甚八の子孫はどこに？

資料によると、残念ながら米田家は絶しているようです。
子孫は日和佐に移った模様。
何か新情報お持ちの方、情報お待ちしています！

米田家家紋

～Column～由岐の名士

石碑を読むと、当時の町長であった田邊雷蔵と有志たちが、米田甚八の功績を称えて建立したものであることが分かります。

阿波沖海戦という一触即発の危機があったにもかかわらず、由岐には戦場遺跡がひとつも残っていません。

戦いの遺跡が無いことこそが、米田甚八が由岐に残した真の功績ではないでしょうか。
（森）

由宇地区の文化財地図

米田甚八屋敷跡